

昨年度に MDASH リテラシーレベルの認定を受け、経営情報学科では今年度から2年次前期に専門選択科目として「データ科学実践」(講義2単位)を MDASH 応用基礎レベルのモデルカリキュラムに沿った内容で開講し、リテラシーレベルと同様の観点で点検・評価を行い、その結果を以下に示す。

1. 学内からの視点

(1) プログラムの履修・修得状況

今年度の開始時点で経営情報学科2年生は106名在籍していて、50名が本プログラムを履修した。8月末の追再試の成績評価が終了した時点で、48名がプログラムの単位を修得した。

(2) 学修成果

本プログラムは経営情報学科の専門科目に関連し、アンケートの問4の(2)「授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。」かどうかを評価する設問で、「大いに役立った」の回答率が他の設問と比較して最も高かったことから、十分な学修成果が得られたと考えられる。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業アンケートの問3「この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についてどの程度理解できましたか。」において、(4)で授業の内容に関する理解度を問う項目があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」を合わせた回答率が90.2%だったので、多くの学生が理解できていると考えられる。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

総合評価値は学生の満足度を表す指標でもあったと考えられ、その値は3.53であった(総合評価値の上限は4.0)。「大変良かった」および「良かった」を合わせた回答率が91.5%であり、(3)に示した「大変良く理解できた」および「よく理解できた」と同様の傾向がみられ、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」の満足度が高くなったと考えられるので、後輩等他の学生への推奨度は高くなることが期待される。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

他学科でリテラシーレベルをさらに向上したいと考える学生のためにも、本プログラムは他学科の希望者も受けられるような体制の構築を検討することで、履修率向上を課題として本プログラムを運用することを課題とする。

(6) 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問が問2に9個あり、「体験的な学習(実習、実験、フィールドワーク等)の機会があった」に注目すると、「大いにあった」「いくらかあった」を

合わせた回答率が 83%であり、多くの学生が満足できていたと考えられることから、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させている授業であったと考えられる。

(7) 内容・水準を維持しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問は学修成果を高めるためにどのような工夫がなされていたかどうかを 9 問の回答状況で把握することができ、教材の工夫が最も高かったことから内容・水準が適切であったと判断し、「分かりやすい」授業であったと考えられる。

2. 学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

MDASH 応用基礎レベル対応の教育プログラムは今年度から経営情報学科で開始したので、本プログラム修了者が地域のそれぞれの民間組織(企業、自治体、団体等)で本プログラムの知識や技術を活用することが期待され、今後は学生が就職した組織の意見も聞きながら、本プログラムの改善を検討する。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本学は「一般社団法人富山県経営者協会 IT・インフラ部会」に加入していて、その意見交換会などが年 2 回開催されている。令和 7 年度も「生成 AI の利用」に関する議論を部会で言い、その際に参加している企業に本学の取り組みを説明し、それに対する以下の貴重なご意見をいただいた。

[A 社の意見]

短期大学として、数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルを学ぶ取り組みは 2 年間で大変だと思いますが、1 科目で学べるようにしている工夫は非常に高く評価いたします。今年度は開始 1 年目で 50 名の学生が履修し、数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルを学ぶ積極性が高いことも評価できますので、このプログラムを修了した学生が活躍することを楽しみにしています。さらに、このプログラムが発展していくことを期待しています。

[B 社の意見]

経営情報学科でさらに専門性を高めるべく数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルの習得を目指し、短期大学として 2 年間の限られた期間内に 1 科目で集中的に学べるプログラムを構築した点は大変素晴らしいと思いました。数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルにチャレンジする学生がプログラムの開始年度から学科内で半数近くもいて、プログラムを修了した学生が地域社会へ貢献することを期待し、このプログラムが認定されることを願っています。

[C 社の意見]

数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルは理工系の大学生が学ぶ内容が盛り込まれていますが、それを短期大学で学べるように工夫されているので非常に優れたプログラムだと思います。このプログラムを修了した学生が理工系出身者と協働できるエンジニアとして社会で活躍されることを期待しています。日本に拠点を持つ物流倉庫の敷地面積と投資額のデータをもとに予測する演習など、実践的なビジネス課題への取り組みを行う時間があり、充実したプログラムだと思います。